

平成 23 年度 学校経営計画書及び自己評価計画書

石川県立津幡高等学校

学校長 太田 信

1 教育目標

自ら学ぶ意欲を養い、知性を磨き、生涯にわたって学び続ける態度を育成する。
思いやりの心を育み、社会性と協調性のある心豊かな人間を育成する。
心身を積極的に錬磨し、健康で気力の充実したたくましい人間を育成する。

2 中・長期的目標

(1) 学校の現状

本校は平成13年に体育科と総合学科からなる学校に改編され、現在創立89年を迎え、地域や保護者から信頼され選ばれる学校として、教育活動に取り組んでいる。

体育科の生徒は、各種競技大会や進学・就職で成果をあげているが、近年、科内の学力差が目立つようになってきている。

総合学科の生徒は、早期に進路目標を意識づける必要があり、「産業社会と人間」等を通じたキャリア教育の充実が望まれる。

(2) 生徒に関する中・長期的目標

基礎・基本の定着 生徒が学習意欲を高め、達成感を味わえる授業改革に努める。

基本的な生活習慣の定着 多様な視点を通して生徒理解に努め、全教職員が一致協力して生徒の規範意識の向上を目指す。

希望進路の実現 進路指導課、学年の連携を緊密にし、3年間を見通した計画的で効果的な進路指導を行う。

部活動の強化 競技力の向上にとどまらず、健全な身体づくりと豊かな心の育成を目指す。

地域貢献 ボランティア活動への積極的な参加を促進し、地域に貢献する。

(3) 教職員、学校組織等の望ましい在り方

学校評価や人事考課および生徒による授業意識調査の活用により、教職員の積極的な意識改革を図る。

教育目標達成のために、各課分掌の連携を深め、組織としての機能を高めた学校体制づくりを進める。

日々の実践や研修を通し積極的に授業改善に努める。

3 今年度の重点目標

基本的な生活習慣の確立（挨拶の励行、規範意識の確立、清掃の徹底）

学習における基礎・基本の徹底（わかる授業への授業改善、朝学習の徹底、体力の増進）

生徒の希望する進路の実現（キャリア教育の充実、「産業社会と人間」等の活用による生徒の進路意識の向上）

部活動の強化と生徒会活動の活性化（部活動の加入促進、全国大会での上位入賞、生徒会活動の充実）

地域・保護者との連携（保護者懇談会・地区別保護者会の充実、ボランティア活動への生徒参加促進）

| | | | | | | | 石川県立津幡高等学校 | |
|--|---------------------------------------|-------------------|---|--|---|---|--|--|
| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 現 状 | 評価の観点 | 達成度判断基準 | 判定基準 | 備 考 | |
| 1 基本的な生活習慣の確立(挨拶の励行、規範意識の確立、清掃の徹底) | 保護者と連携して交通安全・挨拶運動等に取り組み、生徒のマナー向上を図る。 | 生徒課 総務課 各学年 | 登校指導を継続的に行っており、挨拶の励行とともに、生徒のマナー向上をめざしている。 | 【満足度指標】 登校指導や挨拶運動等により、生徒の登校マナーは向上している。 | 生徒のマナーがよくなったと思う保護者が A 70%以上である。 B 60%以上である。 C 50%以上である。 D 50%未満である。 | C・Dの場合はマナー向上に関する取り組みを再検討する。 87% | 前期末に中間集計(判定基準50%) 1月に最終集計 | |
| | 服装容儀の指導を徹底し、生徒の規範意識の向上を図る。 | 生徒課 全職員 | 頭髪・服装の乱れが問題行動につながり、学校生活全般に悪影響を及ぼしている。 | 【成果指標】 生徒自身の意識が高まり、服装容儀・頭髪やマナーなどの向上に努めている生徒が多い。 | 積極的に服装容儀・頭髪やマナーなどの向上に努めた生徒が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。 | C・Dの場合は服装容儀・頭髪・マナー向上に関する取り組みを再検討する。 61% | 前期末に中間集計(判定基準50%) 1月に最終集計 | |
| | 規則正しい家庭生活を送るよう指導することで、遅刻の減少に努める。 | 生徒課 教務課 各学年 | 遅刻・早退・欠席を繰り返す生徒には、保護者と連携を取りながら、粘り強い指導を行っている。 | 【成果指標】 生徒自身の意識が高まり、遅刻する生徒が減少している。 | 累積遅刻件数が昨年同月に比べ、 A 20%以上減少した。 B 10%以上減少した。 C 10%未満の減少であった。 D 減少しなかった。 | C・Dの場合は遅刻指導に関する取り組みを再検討する。 +72(9月末) | 前期末に中間集計(判定基準遅刻5回以上) 1月に最終集計 | |
| | 清掃の徹底により、学習環境の向上とさわやかで心豊かな学校生活の実現を図る。 | 保健環境課 各学年 | 清掃の徹底を呼びかけ、適宜全員清掃を実施しているが、環境美化への意識は十分とは言えない。 | 【成果指標】 校舎内の清掃は徹底されていると答える保護者が70%以上である。 | 清掃は徹底されていると答える保護者が A 70%以上である。 B 60%以上である。 C 50%以上である。 D 50%未満である。 | C・Dの場合は清掃に関する取り組みを再検討する。 81% | 前期末に中間集計(判定基準50%) 1月に最終集計 | |
| 2 学習における基礎・基本の徹底(わかる授業への授業改善、朝学習の徹底、体力の増進) | 教材や指導方法を工夫し、わかりやすい丁寧な授業を実施する。 | 教務課 各教科 | 生徒の学力差が大きいいため、習熟度別授業や個別指導等を実施しているが、その成果は十分とは言えない。 | 【努力指標】 積極的に授業改善に取り組み、わかりやすい丁寧な授業を実施していると答える教職員が80%以上である。 【成果指標】 わかる授業の達成率が80%以上である。 | 積極的に授業改善に取り組み、わかりやすい丁寧な授業を実施していると答える教職員が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。 授業内容はだいたい理解できていると答える生徒が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。 | C・Dの場合は各教科で授業改善への取り組みを検討する。 91% C・Dの場合は授業方法を検討する。 64%(77%) | 前期末に中間集計(判定基準60%) 1月に最終集計 前期末に中間集計(判定基準60%) 1月に最終集計 | |
| | 朝学習を実施し、積極的に学習に取り組む態度を育成する。 | 各学年 教育相談課 | 学習習慣が身に付いておらず、落ち着きや集中力、学習に対する積極性において不十分な生徒が多い。 | 【成果指標】 積極的に朝学習に取り組んでいると答える生徒が80%以上である。 | 積極的に朝学習に取り組んでいると答える生徒が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。 | C・Dの場合は朝学習の内容や実施方法を再検討する。 85% | 前期末に中間集計(判定基準15点) 1月に最終集計 | |

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 現 状 | 評価の観点 | 達成度判断基準 | 判定基準 | 備 考 | |
|------|--|---|--|--|---|--|--|-----------------------------|
| | 生徒の体力増進に努め、たくましい人間づくりをめざす。 | 体育管理課 | スポーツテストの実施にあたり、前年度の記録から新たな目標を設定し、達成をめざして努力させている。 | 【成果指標】 スポーツテストの結果において、前年度の記録を超えた生徒が増えている。 | 前年度の自己記録を超えた生徒が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。 | C・Dの場合は体力増進に関する取り組みを再検討する。 | 1月に最終集計 | |
| 3 | 生徒の希望する進路の実現(キャリア教育の充実、「産業社会と人間」等の活用による生徒の進路意識の向上) | 進路指導課 第3学年 | 進路決定率100%をめざして努力しているが、就職については、経済情勢の悪化に伴い、昨年度末に未内定者が数名出ている。 | 【成果指標】 進路決定率が100%である。 | 進路内定・決定率が A 100%である。 B 95%以上である。 C 90%以上である。 D 90%未満である。 | CやDの場合、指導体制・指導内容を検討する。 | 1月に最終集計 | |
| | | 総合学科1年次の「産業社会と人間」における様々な取り組みや担任との面談を通して、進路意識の早期確立に努める。 | 進路指導課 第1学年 | 「産業社会と人間」の時間で、職業に関する学習や、上級学校の見学、地域の関係機関や企業での職場体験等を実施している。 | 【満足度指標】 「産業社会と人間」における学習活動を通して、進路意識が確立している。 | 自らの進路を考える上で、「産業社会と人間」における学習活動は A 大いに参考になった。 B 参考になった。 C あまり参考にならなかった。 D 参考にならなかった。 | A+Bが70%未満のときは、「産業社会と人間」の内容を再検討する。 77% | 1月に最終集計 |
| 4 | 部活動の強化と生徒会活動の活性化(部活動の加入促進、全国大会での上位入賞、生徒会活動の充実) | 生徒課 各学年 | 体育科生徒の部活動加入率は100%だが、総合学科生徒の年度末部活動加入率は55%である。 | 【成果指標】 総合学科の年度末部活動加入率が上がり、継続的に部活動を行う生徒が増えている。 | 総合学科生徒の年度末部活動加入率が A 70%以上である。 B 60%以上である。 C 55%以上である。 D 55%未満である。 | CまたはDのときは、部活動の加入促進の方法を再検討する。 86・80・41(%) | 中間集計(判定基準60%) 1月に最終集計 | |
| | | 各種のトレーニング方法を実施することにより、県内でトップレベルの競技力を維持し、全国大会に出場してベスト8以上の入賞を目指す。 | 体育管理課 各部顧問 | なぎなた部・ソフトボール部・男女バスケットボール部・ウエイトリフティング部・柔道部など、全国大会での活躍もめざましい。 | 【成果指標】 全国大会に出場する運動部の数が6部以上である。 | 全国大会に出場した運動部が A 6部以上である。 B 5部である。 C 4部である。 D 4部未満である。 | CまたはDのときは、練習方法等を再検討する。 8つの部 | 前期末に中間集計(判定基準4部) 1月に最終集計 |
| | | 生徒会活動を充実させ、執行部の企画力・実行力を養うとともに、学校祭等の行事を盛り上げ、活力と充実感のある学校生活の実現を図る。 | 生徒課 各学年 | 生徒会執行部の積極的な取り組みにより、学校祭等の行事が盛り上がりを見せて来ているが、さらなる自主的・積極的な取り組みが望まれる。 | 【成果指標】 生徒会活動が活発に行われていると答える生徒が70%以上である。 | 生徒会活動が活発に行われていると答える生徒が A 70%以上である。 B 60%以上である。 C 55%以上である。 D 55%未満である。 | CまたはDのときは、生徒会活動の在り方を再検討する。 60% | 中間集計(判定基準60%) 1月に最終集計 |
| 5 | 地域・保護者との連携(保護者懇談会・地区別保護者会の充実、ボランティア活動への生徒参加促進) | 総務課 各学年 | 学校の教育活動や生徒の学習状況等について、より一層保護者の理解を得る必要がある。 | 【成果指標】 保護者懇談会や地区別保護者会での対話を通して、学校の教育活動に対する理解が深まったと答える保護者が70%以上である。 | 保護者懇談会や地区別保護者会での対話を通して、学校の教育活動に対する理解が深まったと答える保護者が A 70%以上である。 B 60%以上である。 C 55%以上である。 D 55%未満である。 | CまたはDのときは、保護者懇談会や地区別保護者会の実施方法を再検討する。 74% | 前期末に中間集計(判定基準60%) 1月に最終集計 | |

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 現 状 | 評価の観点 | 達成度判断基準 | 判定基準 | 備 考 |
|------|-----------------------|-----------------------|--|---|--|---|---------|
| | 地域と連携してボランティア活動を推進する。 | 農業管理課 保健環境課 各学年 | 地域の花壇づくり、施設でのボランティア活動、学校周辺の清掃活動等、ボランティア活動の機会を設けて活動を推進している。 | 【満足度指標】 生徒はボランティア活動の意義を理解し、奉仕することに成就感や満足感を感じている。 | ボランティア活動に参加しての感想は A 充実した活動ができた。 B ほぼ充実した活動ができた。 C あまり充実した活動ができなかった。 D 充実した活動ができなかった。 | A + Bが50%未満のときは、ボランティア活動の意義を理解させる取り組みを再検討する。 66% | 1月に最終集計 |